

令和4年度第2回「生徒による授業評価」集計結果について

令和4年12月、本校生徒に対し「生徒による授業評価」を実施しましたので、結果を報告いたします。

1 授業評価の概要と結果

(1) 評価項目

大項目	設問	小項目
ついでに授業の在り方に	1	毎時間の授業や単元のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとめ）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	3	単元（内容のまとめ）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

(2) 評価

(1) の項目について次の4段階で評価を行った。

- | | |
|--------------|---------------|
| 4 かなり当てはまる | 3 ほぼ当てはまる |
| 2 あまり当てはまらない | 1 ほとんど当てはまらない |

(3) 集計と処理

教科ごとに集計を行い、小項目の評価が「4 かなり当てはまる」の割合を算出した。教科ごとに「4 かなり当てはまる」の割合が最も高い項目には塗りつぶし太字、最も低い項目には下線斜字で明示した。

(4) 各教科の小項目の評価「4 かなり当てはまる」の割合

設問	国語	地歴・公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭
1	<u>28.1%</u>	29.8%	28.9%	30.2%	37.7%	44.0%	27.5%	<u>20.8%</u>
2	38.7%	31.8%	25.9%	29.0%	38.1%	40.6%	30.0%	31.2%
3	36.0%	31.8%	34.6%	33.9%	41.5%	43.0%	28.9%	29.2%
4	28.4%	<u>29.6%</u>	35.4%	30.5%	36.7%	47.7%	29.7%	23.3%
5	35.3%	29.7%	<u>24.5%</u>	<u>27.2%</u>	36.0%	40.1%	<u>26.0%</u>	24.8%
6	31.7%	30.6%	30.0%	30.8%	37.8%	39.6%	27.6%	24.8%
7	31.5%	38.1%	33.9%	34.6%	<u>34.8%</u>	<u>38.1%</u>	32.3%	27.7%

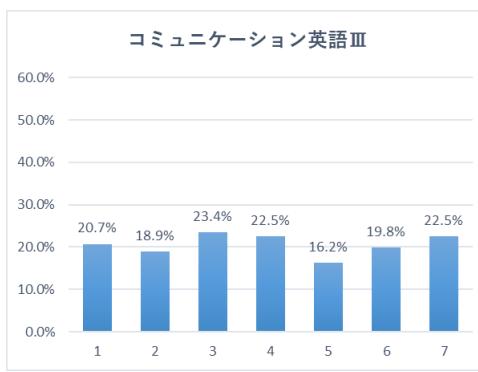
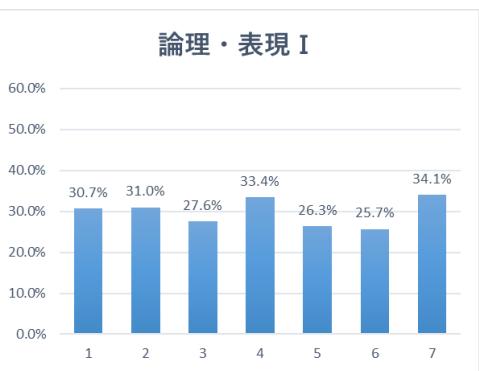
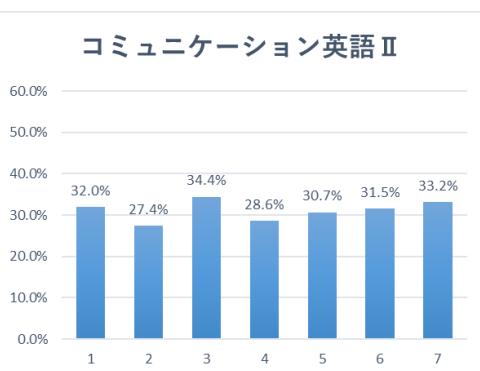
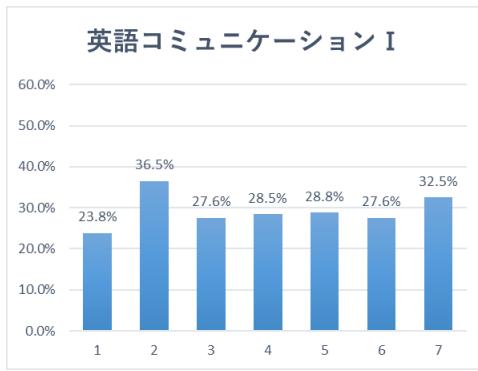
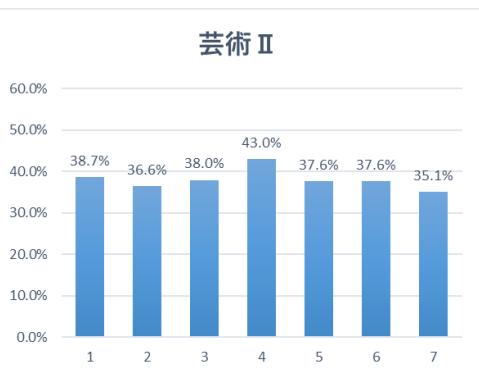
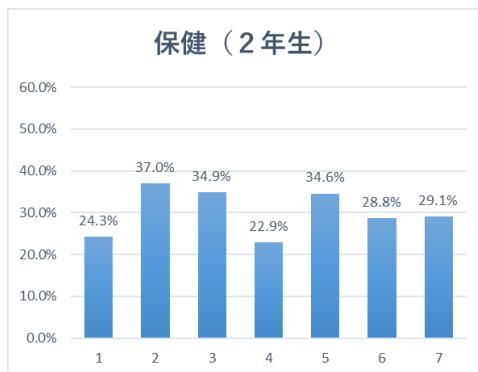
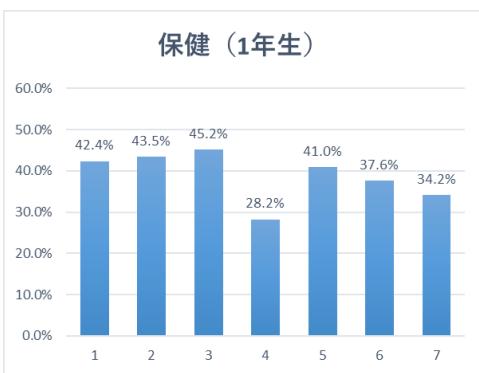
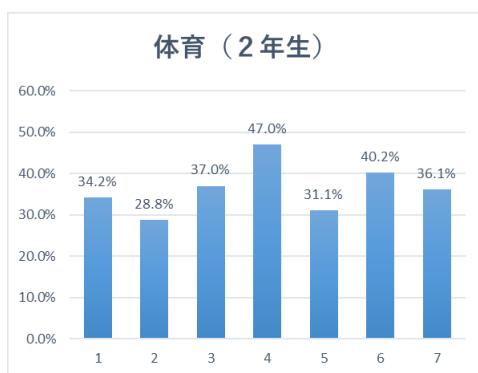
※塗りつぶし太字は教科内で割合の最も高いもの、斜字下線は最も低いものを示す。

各教科の分析と改善の手立て

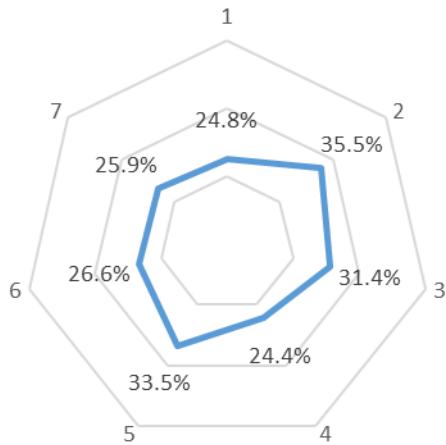
	分析	改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> 設問2の評価で「かなり当てはまる」が38.7%と最も高くなっている、他の考えを知ったり、自分の考えを広げる機会が多く設けられていると考えられる。 設問1「学習のねらい・振り返り」・4「できるようになったことの実感」とともに「かなり当てはまる」の割合が20%代と低くなっていた。 <p>単元毎のねらいの確認と、どのようなことが身についたのかを実感させられていない点が今回の授業評価で見えてきた課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでのように、他の考えを知る機会を確保しながら、単元のねらいや身についたことを言語化する機会を設定する。 特に振り返りを「個人→ペア→個人」の流れで行うことで、生徒それぞれにとってどのようなことが身についたかを実感させることができると考える。
地歴 公民	<ul style="list-style-type: none"> 設問7の数値が前回調査に引き続き高い傾向にあるのは、知識が階層的に積み重なっており、因果関係として現在につながっていくことを学ぶという、地歴公民の重要な目的にかなった授業ができている結果だと考えられる。 設問4・5の数値が低い傾向にあるのは、社会科特有といえる、授業内で教えるべき知識量の多さに授業時間を見切られてしまい、振り返りの時間が不足してしまっている結果だと考えられる。 設問1の数値が低い傾向にあるのは、2学期に入り、授業の流れを生徒が把握したことと、学習のねらいなどを毎時確認しなくなったことに起因するものだと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りや演習の時間を授業外でも確保できるようにする方法としてのclassroomやgoogle form活用は推進しているので、この方法を定着させ、引き続き実施回数を増やしていく。 今後の一一人一台端末の導入・活用を見据え、classroomやgoogle formなどを活用した発表、モニターでの意見共有は進めているので、実施回数を増やし、効率的なグループワークの方法を模索する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> どの項目においても「4　かなり当てはまる」の割合が増加し、平均+7.7%増加した。 <p>1学期の授業評価を受けて一定の改善が行われたものとして受け取られ、今後に活かせる材料になった。しかし、他教科とくに5教科の中でも全体的に割合が低いため、今後の更なる改善が必要であることも認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 覚える事より理解して解答することが日常で求められるため、設問4の項目が高いことは当然であり、設問5については、自分の解法を他者に伝える事が自信がないと伝えなかったり、そのやり取りの時間の確保が今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担当として、生徒が公式や解法を自分なりに整理し、活用すること、生徒のやり取りを確保し、生徒が他者の考えをさらに吸収することを促し、今後の授業改善につなげていく。 他者の考えを自分の知識・考えと照らし合わせて理解を深めることができるためには、基礎基本の定着とその時間を授業にどう設定し、活用していくかが今後の課題となるため、授業展開の工夫を各科目で検討して取り組んでいく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 第1回授業評価アンケートから引き続き設問7の割合が高く、前後の内容と関連付けて理解することができている。逆に設問5の割合は低く、他者の考えを知る機会が少ないことが懸念である。 第1回授業評価アンケートから比較すると、全ての項目について「かなり当てはまる」の割合が増加している。徐々に授業改善が進んでいると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> iPad等の機器を活用して実験データの処理や調べ学習を行い、自らの考えを共有し、他者の考えを知る機会を作る。
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> 設問3（課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある）でかなり当てはまるの回答が高い割合になっている。これは授業の中で知識・技能の伝達のみでなく生徒に考えさせる時間を作っているのではないかと考える。 設問7「学んだことを関連付けて理解する」についてはかなり当てはまるの評価が他の質問に比べると低くなっている。これは保健の授業では単元によってはまったく違う分野を学習することが大きな要因ではないかと考える。体育では違う種目を行う際には異なる技能が必要になることが多い為、そのように感じる生徒が多いと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 設問7「学んだことを関連付けて理解する」を多くの生徒が達成できるように教科として以下のように取り組む。保健では単元が変わる際に、他の単元と共通する内容を強調して伝えていく。体育では他種目でも同じ型（ゴール型、ネット型、ベースボール型）であれば共通して必要な技能があること、他種目の戦術を応用できる場面があること、など他種目との関連性を適宜伝えていく。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> 第1回から引き続き、全ての項目において肯定的な評価の割合が高くなっている、自由記述欄からも授業内容について肯定的に捉えられていることが伺える。 特に設問4は、半数近い生徒から「かなり当てはまる」の回答を得られた。実習の多い教科であるので、第1回から更に様々な題材を取り組み経験を重ねたことで、「できるようになった」と実感できる機会を多く得られたためであると考えられる。 設問7は、第1回では他項目に比べ「かなり当てはまる」の割合が低くなっていたが、第2回では数値が改善が見られた。第1回の結果を踏まえ、教科の中で学習内容のつながりを伝えていくよう意識したので、その成果であると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「他者の考え」についての設問2、5の評価が若干低下傾向にあるので、ペアワークやグループワーク等を活用した意見交換の場面作りを充実させていく。 第1回より改善は見られたものの、設問7の数値は依然として他の項目より「かなり当てはまる」の割合が低い傾向にあるので、学習内容のつながりについて意識する場面作りを引き続き行っていく。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 設問5「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができる」について、「かなりあてはまる」の割合が低い。 設問7「学んだことを関連付けて理解する」について、「かなりあてはまる」の割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアワークやグループワークを取り入れ、他者の考えを知る機会を設け、それを踏まえて自らの考えを広げ深めができるような授業展開を工夫する。 引き続き「学んだことを関連付けて理解する」ための授業展開を心がけ、思考の場面を充実させる。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 全ての質問において4「かなり当てはまる」割合が5～10%増えており、改善の成果がみられた。 設問1の「授業はじめのねらいを示したり振り返りをする」の評価が低いが、家庭基礎は多くの単元を1年間で学習するため、テスト前の授業は急ぎ足になってしまったためと思われる。 設問6「自分の考えをまとめたり課題解決方法を考える」については、大きく改善できた。設問2「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める」評価が高く、これらは2時間連続授業のため、毎時間、知識を学習する時間とグループワークの時間を設けているためと考えられる。 自由記述では、意見交換の場やスライド提示を継続してほしいという好意的な意見がある反面、授業進度が早い、遅いなど進度に関する意見がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての項目において、「かなり当てはまる」という評価が得られるよう、本校生徒のニーズを察知し一人ひとりに目を向け丁寧な授業と改善を心掛ける。 項目1の改善の手立ては、毎時間確実に学習内容やねらいを提示し、授業の振り返りの時間を確実に確保し実施することで、その時間の内容理解を深めさせたい。 実習やグループワークの授業は今後も継続し実践力と持続可能な生活を営むためができるスキルを身につけさせていきたい。

2 科目別・項目別評価「4 かなり当てはまる」の割合 (各学年必修科目のみ記載)

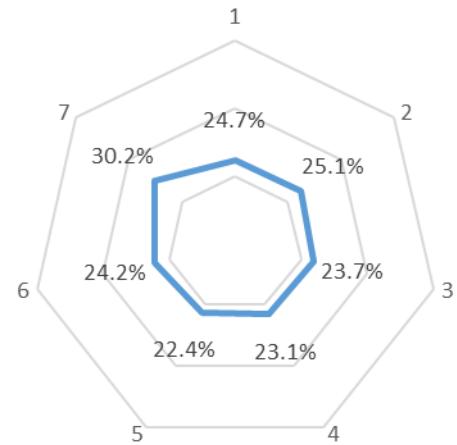




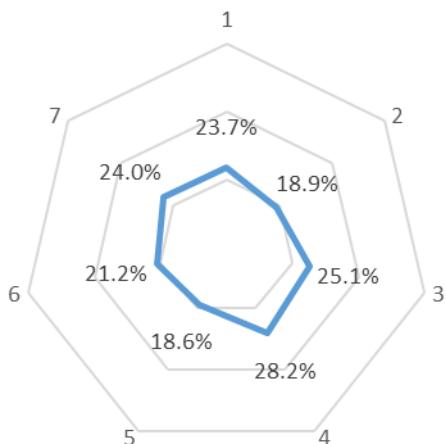
国語



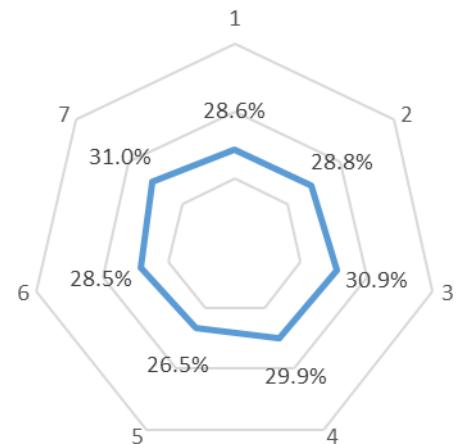
地歴・公民



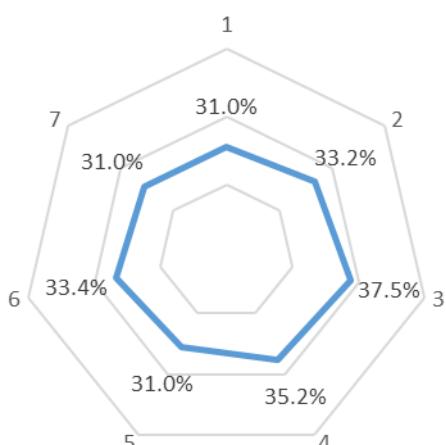
数学



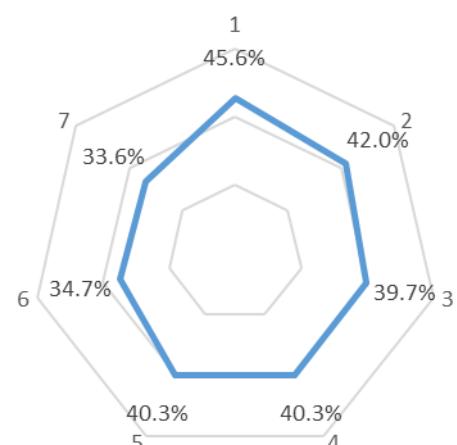
理科



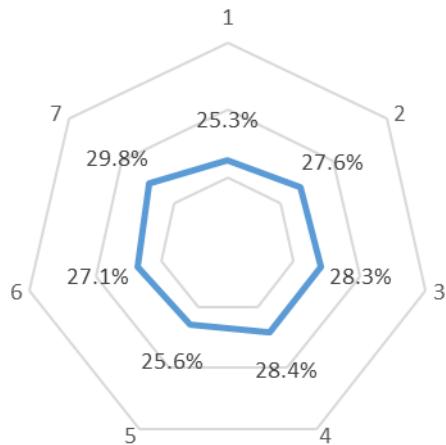
保健・体育



芸術



外国語



家庭

